

薬剤散布および薬剤への展着剤の加用がシンガポールへの低温海上輸送後に発生するウンシュウミカン果実の腐敗に及ぼす影響

武田知明・衛藤夏葉¹・岡室美絵子²・井沼 崇³・中野龍平⁴・
福田文夫⁵・河井 崇⁵・深松陽介⁶・西銘玲子⁷

和歌山県果樹試験場,¹和歌山県海草振興局,²前和歌山県果樹試験場,³和歌山県農林水産部,⁴京都大学大学院農学研究科,⁵岡山大学大学院環境生命科学研究科,⁶岡山県農林水産総合センター生物科学研究所,⁷三井化学シンガポール R&D センター

Effects of fungicide application and addition of a sticker adjuvant to the fungicide on the occurrence of fruit rot in Satsuma mandarin after refrigerated maritime transportation from Japan to Singapore

Tomoaki Takeda, Kayou Eto¹, Mieko Okamuro², Takashi Inuma³, Ryuhei Nakano⁴,
Fumio Fukuda⁵, Takashi Kawai⁵, Yousuke Fukamatsu⁶, Reiko Nishime⁷

Wakayama Prefectural Fruit Tree Experiment Station,

¹*Kaisou Bureau, Wakayama Prefectural Office,*

²*Former Wakayama Prefectural Fruit Tree Experiment Station,*

³*Agriculture, Forestry and Fishery Department, Wakayama Prefectural Office,*

⁴*Graduate School of Agriculture, Kyoto University,*

⁵*Graduate School of Environmental and Life Science, Okayama University,*

⁶*Research Institute for Biological Sciences, Okayama Prefecture,*

⁷*Mitsui Chemicals Singapore R&D Centre Pte Ltd.*

摘 要

ウンシュウミカンのシンガポール輸出後の果実腐敗軽減技術確立のため、いくつかの試験を実施した。県内の 44 圃場で採集したカンキツ緑かび病菌 110 菌株のチオファネートメチル剤およびベノミル剤耐性菌率は 8.2%と低く、イミノクタジン酢酸塩剤の耐性菌は確認されなかったことから、3 剤の耐性菌による防除効果の低下はないものと思われた。リーファーコンテナを用いた海上輸送試験において、収穫前のチオファネートメチル水和剤散布はコンテナから搬出 19 日後の腐敗果率を無散布の約 41%に抑制したことから、本剤の散布は輸出後の果実腐敗軽減に実用性がある。パラフィン系展着剤をチオファネートメチル水和剤またはイミノクタジン酢酸塩液剤に加用することで、人工降雨条件下での緑かび病菌接種試験では発病箇所率の低下が認められ、上記と同様の海上輸送試験においては、搬出 14 日後の腐敗果率が低下する傾向がみられた。これらのことから、収穫前の殺菌剤へのパラフィン系展着剤の加用は輸出後の果実腐敗に対する防除効果を向上させると考えられた。